

北沢書店 その1

北沢書店は明治35年（1902年）、神田神保町で大学図書館、研究室への納本を中心に営業を開始した。1955年(昭和30年)には、洋書専門店となり、以来、人文科学系洋古書の輸入販売を営んでいる。

今回展示したケルムスコット・プレス版『トロイ物語集成』は、北沢書店から購入した資料で、コンディションが良好な資料なものであるとのことだ。

元々ウィリアム・モリスはデザイナーだったが、自分の理想の書物を作成するためケルムスコット・プレスを設立した。手がけた書物は50数点にもなる。トロイ物語集成は、モリスの愛読書であったことから作成された。

ウィリアム・モリスの書物は、洋書店の花形の資料で、市場に出回ることが少なく、金額も高額であることから、店主は販売先について覚えている場合が多いという。活字が美しく、そこから本の世界に関心を持つ人も少なくない。美しい活字は本を読むモチベーションにもなるとのことだった。

北沢書店 その2

北沢書店は洋書・英語の本を中心に古い本（セカンドハンド）を扱っている。分野は、文化系の資料が多いが、どんな方の知的好奇心に応えることができるような資料を収集している。扱う時代は、1500年代—1900年代のものが多く、学生のみなさんには、実際のその時代の本を手にとって体感してもらいたいとのことだ

昔は、古書を利用する学生が多かった。どんな時代でも、学生は様々な知識を獲得し、広げることが大事だと思うので、ぜひ古書で知見を深めて欲しい。

古書店には、元々本に関心がある人が来る場合が多い。古書店に関心がない人にも来店してもらうには、古書店がどういう場所か知ってもらうことが大切だと考え、北沢書店は、様々なアプローチをしている。

北沢書店 その3

直近の5年間は、ディスプレイ用の洋書に力を入れて各種取り揃えており、ディスプレイ用の図書を扱うKITAZAWA DISPLAY BOOKSを立ち上げている。時代の変化によって手に取られにくくなった本にディスプレイという形で新たな役割を見出した。学生さんの古書への入り口としてもいいのではないかなと思う。

北沢書店は専門書とディスプレイ用の資料を同時に販売するために、それぞれのコンセプトを明確にしている。そのため、購入するお客さんのグループはそれぞれ異なる。色々な人が、色々な目的で本を求めている。ディスプレイブックが、若い人にこういう世界があると知ってもらうきっかけになるといい。

古いやり方もいいが、伝統を踏まえつつも、その時々ニーズに合わせて続けていくことが大切だ。

KITAZAWA
DISPLAY
BOOKS.







OPEN
Monday - Saturday
12:00-17:00

YES WE ARE
OPEN

OPEN
Monday - Saturday
12:00-17:00

